

支部だより

北海道支部

毎年会員が増え、現在正会員 37 名、賛助会員 3 社となりました。これに賛助企業の代表が加わって、支部名簿には 57 名が記載されております。まず、活動状況は次のとおりです。

1. 月例講演会：“企業経営および行政と OR”，矢部 真氏（新日鉄），48 年 12 月，札幌東経済センタービル，参加者は官公庁・公共企業体職員を中心に 41 名，たいへん好評でした。

2. 研究会：(i)“電々公社 DEMOS システムとその周辺”，樋口喜一（電々・データ通信部），(ii)“SPSS 説明会”，司馬正次，須藤 研，山田建典（いずれも北大）。いずれも“ききもの”で、とても勉強になりました。

3. 講演会への参加：(i) H. Chennoff 教授講演会，“パターン認識の方法”，北海道大学応用電気研究所。(ii) 日本規格協会品質管理講演会，“銭（ゼニ）になる品質管理”唐津 一氏（松下通信），“企業の製品責任と品質管理”水野 滋氏（東京理科大），厚生年金会館。それぞれ支部会員 10 名，6 名をさしむけて受講ねがいました。

次に、大学など教育機関と企業・官公庁に大別して、それぞれにおける活動の様子をのべます。

教育機関の会員数は毎年増え（他府県との異動もあまりないから）、その活動も盛んになっています。そのかげには、理工系、文科系をとわず、OR 手法を含んだカリキュラムの新設がありましよう。それを受講する学生の数も相当な数になっているはずです。筆者も講義をしていますので、毎年、OR 手法を 8 種ほど学んだ若い人たちが何十人も卒業していくのが楽しみであります。また、北海道大学の加地郁夫、司馬正次、五十嵐日出夫の諸氏、札幌大学の高須一美女史らの著作活動に注目しております。さらに、“北海道情報センター”なる半官半民の産業・社会情報サービス組織の設立が企画され、当支部長の三浦良一北大工学部教授が、同大学大型計算センター長としての忙しい日々合間に、その計画を指導されております。しかし、前途はなかなか楽観を

許さぬとのことです。筆者も昨年夏、ある計算会社から依頼され、札幌市内各企業の部長さん級に、計算機利用の OR についてささやかなお話をしたのですが、所謂情報化社会への道の遠さ、けわしさをひしひしと感じたしだいでした。キカイや組織ができて“魂”を入れねばなりません。

そこで各企業・官公庁の有様に目を転じましよう。業務全般に OR が大いに利活用されているところ、労使関係が濃い影を落としているデッド・ロックに乗り上げたところなど、明暗さまざまであります。これまで各企業が養成訓練した OR マンはどう少なく見ても百名を下らぬはずです。その人たちはどうしているでしょうか。ところで北海道新聞 48. 9. 16 付，“頭脳産業”なる特集記事で、北海道生産性本部の原勲事務局次長は、“……頭脳産業の担い手は優れた人材である。本道の産業は全般的にこれらの人材の活用以前の状態、つまり労働環境が未整備である……”とっております。同部がこれまでに行った事業からいって、その“人材”なるものに“OR をも駆使できるほどの高度の能力を持った人間”なる定義が含まれているとみてよいでしょう。また“労働環境”なる語には、労使双方の意識構造の問題が含まれています。たとえば“学歴偏重社会”なるものは、率直にいうと労使ともに（とくに労働者自身）他のいかなる方式に比しても最も反対が少ないから存立しているのだと理解すべきでないでしょうか。概して労働者側の思考様式は日本人特有の画一化志向の傾向が強く、そのいうところを聞くと、“適材適所”なる理念などとは整合しないかにみえます。それに応ずべき経営側も説得力を欠き、あたり有為な人材が埋もれ、髀肉の嘆をかこつ結果となつてはいないでしょうか？ なお、北海道人の良さは“素朴さ”にあるといわれますが、それが逆に作用して、とかく“全か無か”式の単純な思考展開となり、苫小牧工業基地、発電所、新幹線等々、何でも“絶対”反対となります。どの点について、どこからどこまで、どのような制約条件の下で、可能な最適方針（つまり妥協点）を見いだすかといった OR 精神が理解される風土を、開道百年にして未

だ形成しえていないことになりましょう。ともあれ、長い目で世間をみることにして、まず教育機関は懸命の努力で人材の卵を送り出し、企業側では労使ともに実りある未来のために、彼らを有為な人材たるべく鍛え活躍させていただきたいと思ひます。

今年度は交通網計画、天気予報新技術、大学や企業内の教育訓練の諸問題など、いろいろとりあげて研究をしたいと思っております。

(幹事 浅利記)



48年度論文審査委員

48年度の“経営科学”および“*Journal of the Operations Research Society of Japan*”の投稿論文の査読は、次の方々をお願いいたしました。

阿部 俊一	阿部 統	阿保 栄司
青沼 龍雄	出居 茂	伊理 正夫
茨木 俊秀	江藤 肇	小河原正巳
小田中敏男	片岡 信二	岸 尚
小池 将貴	児玉 正憲	古林 隆
小林 竜一	小山 昭雄	坂口 実
嶋田 正三	鈴木 武次	鈴木 誠道
須永 照雄	千住 鎮雄	反町 洋一
竹内 啓	高橋 磐郎	高橋 幸雄
多田 和夫	高松 俊朗	成久 洋之
西田 俊夫	西野 吉次	橋田 温
藤井 光昭	藤沢 武久	本間鶴千代
真壁 肇	牧野 都治	松田 正一
松田 武彦	真鍋龍太郎	三上 操
三根 久	宮沢 光一	森村 英典
森 雅夫	安田八十五	山本 正明
依田 浩	横井 満	

(敬称略)

会 合 (49年2月～5月) (かっこ内は出席者数)

第6回理事会 49.2.14(13) 議題 1. 第5回議事録の承認 2. 研究部会の継続申請の件 3. コーポレート・ブランニング・セミナー延期の件 4. 秋季大会の特別テーマの件 5. 科学研究費の件 6. 春季研究発表会の件 7. 定期総会開催の件 8. 役員、評議員候補者の件 9. 昭和49年度予算案の件 10. 入退会の件 11. 国際会議の件

第7回理事会 49.4.5(9) 議題 1. 第6回議事録の承認 2. 第2回オペレーションズ・リサーチ

文献賞選考経過の件 3. 定期総会議案の件 4. オペレーションズ・リサーチ合同国際会議の件 5. 研究部会の終了報告および決算報告の件 6. 入退会の件 7. 中部支部規約の一部改訂の件 8. 第2回シンポジウム“組合せ理論”の件 9. その他

新旧理事会 49.4.27(21) 議題 1. 新旧理事各自紹介 2. 前回議事録の承認 3. 各委員長、委員、幹事推薦の件 4. 第2回日米コンピュータ会議協賛依頼の件 5. 第17回自動制御連合講演会の件 6. 入退会の件

第1回理事会 49.5.30(11) 議題 1. 通常総会議事録の承認 2. 新旧理事会議事録の承認 3. 支部総会議事録の承認 4. 49年度国際幹事推薦の件 5. IAOR委員の推薦の件 6. 秋季大会担当理事の選任の件 7. 広告委員長選任の件 8. 国際関係の件 9. 入退会の件 10. 49年度予算の委員会別、業務別配分の件 11. 48年度受託研究の終了報告の件 12. 49年度研究受託の件 13. 中国四国支部の規約変更の件 14. その他

研究普及委員・幹事会 49.2.7(13); 49.3.29(6); 49.5.28(14)

表彰委員会 49.2.18(2)

IFORS-TIMS 常任委員会 49.2.19(8); 49.4.9(9); 49.5.16(12)

主査会議 49.2.28(7)

IAOR 委員会 49.3.5(3); 49.4.16(3); 49.5.21(3)

広告委員会 49.3.27(3)

編集委員会 49.3.28(7)

支部長会議 49.4.7(9)

評議員会 49.4.7(16)

庶務幹事会 49.2.1(9); 49.3.6(7); 49.4.6(8); 49.5.10(4)

会計幹事会 49.2.7(5); 49.3.23(3); 49.5.13